

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	17-037	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>The prevalence of and factors associated with high-risk alcohol consumption in Korean adults: The 2009-2011 Korea National Health and Nutrition Examination Survey.</p> <p>韓国人成人における高危険度アルコール摂取の頻度とその要因: 2009-2011 年韓国国民健康栄養調査</p>		
執筆者		
Hong JW, Noh JH, Kim DJ.		
掲載誌		
PLoS One. 2017 Apr 6;12(4):e0175299. doi: 10.1371/journal.pone.0175299.		
キーワード		PMID
アルコール摂取量、アルコール摂取危険様式、アルコール摂取障害自己テスト		28384270
要 旨		
目的：		
<p>飲酒は健康に影響を与えることは明らかとされているが、飲酒は総飲酒量および飲酒パターンという 2 つの因子により評価でき、これらが互いに関連する。多くの疫学研究では総飲酒量に着目しており、飲酒パターンは考慮されていない。本研究では韓国人成人での高リスク飲酒者の頻度ならびに重度アルコール摂取の要因を評価した。</p>		
方法：		
<p>2009-2011年の韓国国民健康栄養調査の対象者15,215名を解析対象とした。高リスク飲酒をWHOガイドラインにのっとり、アルコール摂取障害自己テスト(AUDIT)16点以上と定義した。カイ二乗検定とANCOVAを用いて、社会人口統計学的要因による加算平均AUDITスコアを評価し、大量アルコール摂取と高リスク飲酒者の共変量とのオッズ比をロジスティック回帰分析で算出した。</p>		
結果：		
<p>高リスク飲酒者は男性の 23.7%、女性の 4.2%に確認され、年齢層別では中年男性 (45-64 歳)と若年女性 (19-44 歳)で最も多かった。加重平均 AUDIT スコアは男性の方が高く(男性 10.0、女性 4.0、$P<0.001$)、年齢とは負に関連した ($P<0.001$)。また、加重平均 AUDIT スコアは、小学校卒 (8.2 点)が、高卒 (7.5 点, $P=0.003$)や大学卒 (6.5 点, $P<0.001$)と比して有意に高く、職業別では管理職・専門職 (7.4 点)に比し、事務職 (8.1 点, $P=0.002$)やセールス業 (8.6 点, $P<0.001$)で高かった。これらの結果は、性別・年齢・教育レベル・世帯人数・世帯収入や職業などを調整しても同様であった。一方、家族構成人数や世帯収入は高リスク飲酒と関連しなかった。</p>		
結論：		
<p>韓国人成人において、若年、男性、低学歴およびセールス業労働者は高リスク飲酒者であるリスクが高い可能性が示唆された。高リスク飲酒あるいは飲酒に関連した疾患に対する予防介入において、これら因子を考慮する必要があると考えられる。</p>		